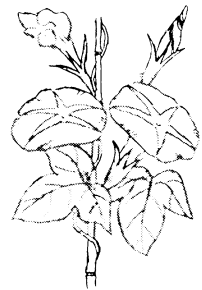


博物館ノート

『戦争と平和に関する資料』



今年、戦後五十年の記念すべき年です。

当館は、歴史系の博物館としてさまざまな資料を収集・展示しています。ここでは、当館の戦争関係展示資料の概要を紹介し、皆さんが、戦争と平和・人間の尊厳について考える際のきっかけにしたいと思えます。

総合展示は通史的に構成されていますが、近・現代のコーナーのうち、第二次世界大戦に関わるのは、「十五年戦争下の生活」です。以下に主な展示資料を見てみましょう。

ここでひととき目を引くのは、ボンネット型の木炭バスです。戦時下で、民需用のガソリンが不足し、木炭や薪で走る代用燃料バスが開発されました。また、これは戦後の物資欠乏時代にも使用されました。

次に目を引くのは、「歓送入営兵士小針常世君」と大きく書かれた幟旗です。その下には、特攻隊員の電熱航空被服やゴータル付きの飛行帽ほか装備一式が展示してあります。

これらの目につく資料の前の展示ケースの



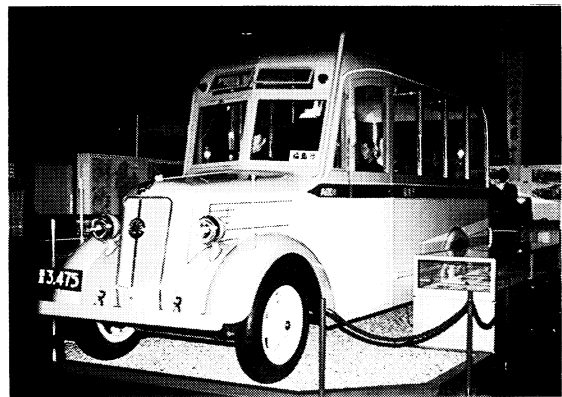
15年戦争下の生活の展示

中には、いろいろな資料があります。主として「銃後」の国民生活に関わるものです。県内の空襲に関わるものもあります。

戦後五十年にちなみ、平和教育の一助として、改めて当館の戦争関係展示資料をご覧ください。



木炭八人の燃焼部



木炭八人の全景